令和５年度　江戸川区立瑞江小学校　学校関係者評価　年度当初・中間報告書

学校教育目標	東京都及び江戸川区の学校教育の教育目標を踏まえ、人権尊重と社会貢献の精神を基盤として生きる力を支える知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性及び社会性を育むとともに、国際社会や地域社会の各界で活躍し、貢献できる人格の育成を目指す。	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	●よく考える瑞江の子　●元気で明るい瑞江の子 ●進んで物事をする瑞江の子　●思いやりのある瑞江の子
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞感染症対策のため活動に様々な制限がかかる中ではあったが、教職員で創意工夫し、学習目標達成に向けた活動ができた。一人一台端末の活用の仕方について、教員同士の情報交換や校内研修を通して充実を図った。 ＜課題＞読書科の目標達成に向け、図書館から派遣される司書との連携が必須である。感染症対策のため学校公開等の機会が少なく、保護者・地域への発信が不十分であった。公開に限らず情報発信できるよう手立ての構築が必要である。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞ ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学力向上委員会を中心に「確かな学力向上プラン」を策定・実施・修正し計画的な運用を行う。 ・一人一台端末やミライシードの活用について、情報推進リーダーを中心に充実を図る。	・4月初旬に全教員で学力向上プランを確認し年間計画を策定する。3学期に年間の成果と課題を確認し、次年度に向けてプランの見直しを行う。 ・月1回以上、一人一台端末やミライシードに関する活用方法の紹介や検討を、情報推進リーダーが中心となり行う。						
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・東部図書館より派遣される図書館司書および校内図書ボランティアなど読書科にかかわりのある方々との連携を深める。 ・本校の実態および各学年児童の発達段階に応じた探究的な学習の充実を図る。	・4月中に司書との打ち合わせを行い、連携の基本方針と年間の活動内容について明確にし、月4回前後の来校日には活動内容の確認を行い、各学年の学習状況に応じた支援について検討する。 ・7月の蔵書バーコード管理化を機に探究的な活動に活用しやすい図書室の整備を行う。 ・4月、各学級の読書科開始時に司書による指導を行い探究的な活動における図書資料の活用を促す。						
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・全校運動遊びを活用し、運動に親しむ姿勢を育む。児童が遊びの中で取り入れることのできる運動遊びを紹介し、体験させることで運動の日常化を図る。 ・運動の日常化を図るため、体育科の授業と休み時間の遊びをつなげる。	・年25回、全校運動遊びを実施する。 ・活動内容について教師自身が体験的に学ぶ校内研修を月1回以上実施する。 ・校内体育部から鉄棒やなわとび、マラソンなどの学習カードを提供し、全児童が1日1度は校庭に出て運動に親しむことができるよう働きかける。						
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・ライフサポート部において児童の困り感について共有・検討し、学校全体で指導の充実を図る。 ・エンカレッジルームについて共通理解を図る。 ・仲よし学級児童及び5名の副籍児童、通常の学級児童について、それぞれの実態に応じた交流および共同学習の目標を定めて活動する。	・4月に校内支援委員会を実施して共通理解を図る。担任等からの要望により個別相談を実施し、支援委員会で検討することで指導の充実を図る。 ・年1回以上、巡回指導教諭によるエンカレッジに関する講習会や児童への理解推進授業を行う。 ・4月初旬に仲よし学級担任より各学年担任に交流計画を示す。特別支援学級児童・通常学級児童双方の目標を明確にして交流及び共同学習を行い全ての児童が充実した学習活動を行えるよう努める。						
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・hypaer-QUの活用	・Q-Uテストを実施し、その結果を個々の児童理解や学年・学級経営に活用する。	・6月中にQ-Uテストを実施し、8月までにその結果について分析を行う。9月末までに結果と分析について資料を作成し、保護者との共有を行う。 ・8月中に行った分析結果をもとに、各学級での指導について見直しを図る。						
地域に広く開かれた学校(園)の実現	＜自校(園)の取組の積極的な発信＞ ・学校(園)ホームページの充実等	・定期的に学校ホームページを更新し、内容の充実を図るとともに新しい情報を地域・保護者に向けて随時発信する。	・トップページの「学校日記」で学校行事や日常の授業、活動などの様子を撮影した画像を随時発信するとともに、毎日「今日の給食」で給食の献立の写真を掲載する。						
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員による学校関係者評価の充実を図る。 ・保護者アンケートを活用した学校評価の充実を図る。	・年間3回の学校評議員会を活用し、教育活動に関する意見を定期的に得る。 ・MicrosoftFormsを活用してアンケートの簡略化を図り、より多くの意見を集約できるようにする。分析に時間をかけることでより正確な評価ができるようにする。						
特色ある教育の展開	＜学校における働き方改革プラン＞ ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・組織改革による働き方改革を推進する。	・5年先を見通して活動しやすい組織づくりを行う。昨年度から編成した組織の状況を確認し、活動内容を修正する。						
		・意識改革による働き方改革を推進する。	・教員自身が時間に対する意識を高め、優先順位や作業内容を工夫して月別時間外勤務時間が45時間を超えないよう、月ごとに確認し勤務内容の調整を図る。						